柿生文化

平成２４年３月　１日
柿生郷土史料館　情報・研究誌
住所：川崎市麻生区上麻生6-40-1柿生中学校内
電話：044-988-0004（柿生中学校）
第４６号

昔、柿生・岡上は山伏の修行の場であった

―― 多摩丘陵で見られる修験者の足跡 ――

現代では、山伏（やまぶし）、修験道（しゅげんどう）、修験者（しゅげんじゃ）などという言葉はあまり耳慣れない言葉となってしまいました。

最近の神奈川新聞（1月29日版）にはこんな写真が掲載されていました。これは、小田原市万福寺で行なわれた「火伏せ祭り」の光景です。

ここに登場している白装束と兜巾（ときん）という魔除けの小さな帽子状のものを頭に付けている人物が修験者、あるいは山伏といわれている人達です。日常は「ほら貝」を吹いて山奥で修行をしている人達です。確か「天狗（てんぐ）」も同じような格好をしています。

この写真に掲載されているものは火災除けや無病息災を祈願して火の上を素足で駆け抜ける修業の一つです。実は昔、柿生・岡上でもこのような修験者がたくさん修業をしていたのではないかということなのです。

岡上には「山伏谷戸」という地名が残っています。

（小田原の火伏せ祭り）

修験者・山伏の歴史と特徴

山岳信仰との関係　かなり古い昔から人々は山には魔霊がひそみ数々の災難をもたらすものと恐れていました。また一方では、山には天の神が降りて里に恩恵をもたらすと考えていました。したがってこれらの神々に対する恐れや尊敬の心が「山岳信仰」という形で人々の信仰の対象となるようになりました。そして、険しい山に登り山中で修行することによって不思議な霊力を獲得できると信じられるようになりました。

奈良時代に大和国（やまとのくに）葛城山（かつらぎさん）に住んで修業していた役小角（えんのおずぬ＝別称「役行者」）は、これらの不可思議な霊力をつけた最初の人物といわれています。『続日本紀（しょくにほんぎ＝794年に完成した7世紀～8世紀半ば頃までの歴史書）』には「役小角は大変呪術をよくするので６９９年に弟子の韓国連廣足（からくにのむらじひろたる＝人物名）から讒言（ざんげん＝悪口を言われること・事実でないことを言われること）され伊豆の島に流された」という記述があります。

この記述で気になるのは役小角の弟子であった韓国連廣足は朝鮮半島の出身と思われ、朝鮮の巫堂（ムダン）との関連もありそうです。巫堂は朝鮮半島にある原始宗教の一つで韓国では民間信仰として古くから受けつがれてきました。もともと病気を治したり、災難に対する悪霊払い、先祖供養、五穀豊穣のための呪術などを行い、霊と交渉してお告げを受けたりもしました。日本には青森県恐山の「イタコ」等が有名ですが「巫堂」は２～３０００年も前から存在してといわれています。（次ページに続く）

（１頁から続く）**仏教（密教）との関係**　やがて、平安時代初期に最澄の天台・空海の真言の教えが伝来すると、深い山中に入って祈祷（きとう＝呪文を唱え神仏に祈ること）や呪術（じゅじゅつ＝神霊にはたらきかけ不思議な現象を起こさせること）を行なう修業が盛んに行なわれ、超自然的な能力を身につけようとする修験者（山伏）が多数現われるようになりました。

また『修験道日用見聞抄』という修験者の教義書（信仰の教えを説いた書物）の中には「第一に法華経を以て修学すべし」と書かれ、仏教の経典を教えの基本に置いています。また不動明王（仏教を守護するインドの神で悪魔を退治する）を本尊とすることが多く仏教との深いつながりが分かります。

（役の行者像）

秋葉信仰との関係

柿生で、現在まで続いている「秋葉信仰」も修験者と深い関係があります。秋葉信仰はもともと静岡県の山岳地帯にある秋葉山で始まり火伏せの神に対する信仰をもち、修験者の「三尺坊」を信仰の対象としています。一般的には「三尺坊権現（権現＝ごんげんとは仏教の「仏」が、日本の「神」に姿をかえて現われたものとされている）」といい天狗（てんぐ）であるともいわれています。

（秋葉三尺坊権現像）

御嶽（みたけ）信仰との関係　柿生でも家の玄関付近に貼られている「オオカミの護符」でおなじみの「御嶽信仰」は東京青梅の御岳山を対象とした山岳信仰です。ここにも平安時代末頃からこの山地にも修験者たちが入り、修行することになりました。

この時期には、中心的存在である吉野の御嶽（金峰山＝きんぶさん）や秩父の三峰神社、木曽の御嶽（おんたけ）などにも多くの修験者が修行していたといわれ、御嶽信仰との強い結びつきが出来ました。

柿生・岡上と修験者

以上のように修験者は日本独特の**山岳信仰**にもとづいて、さらに**仏教（特に密教）**や、**神道**に関する精進（しょうじん＝心身を清めること）・潔斎（けっさい＝酒・肉食を慎むこと）・参籠（さんろう＝神社にこもって祈願すること）などの儀礼そして、中国から伝わった**陰陽道（おんみょうどう）**の卜占（うらない）や呪法（じゅほう＝呪文を唱えること）など多くの信仰や宗教と関わりをもちながら**修験道**（しゅげんどう＝修験者が信仰する教えや教団の総称）を継承してきました。

（御嶽の「オオカミの護符」）

このようにして考えてみますと、柿生・岡上に修験者が多く存在したのではないかという疑問を解く手がかりとして次のようなキーワードをあげることができます。　それは、①密教の教えを伝える王禅寺や岡上の東光院などをはじめとする真言宗の古い寺院の存在。②下麻生の不動院（もともと王禅寺の末寺であった）の**不動明王（火伏せの不動）**。③山岳信仰で修験に関係する浄慶寺境内秋葉神社の**秋葉信仰**と祀られている**火伏せの神**。　④今でも柿生で続く御嶽講を支える**御嶽信仰**。　⑤**修験道の歴史を持つ加賀白山神社の末社**である白山４丁目にある白山神社。　⑥岡上の地名に残されている**「山伏谷戸」**など。以上のように修験者にまつわる事柄が大変多くあげられます。柿生・岡上が諸条件などから修験道の盛んな地域であったという証明にもなりそうです。

（江戸時代の修験者）

（参考資料：「山伏の歴史」「熊野修験」「御嶽信仰」「秋葉信仰」）

郷土の歳時記

２月（如月＝きさらぎ＝草木が萌え出る月という意味）

◎節分（せつぶん）（２月３日）

・**節分**は四季の別れ目を意味し立春・立夏・立秋・立冬の前日をさします。

・**立春**が１年の始めと考えられていることから四季の節分のうちでも春の節分がもっとも重視され、農作業が始まります。。
立春が新年と考えら、節分は大晦日に相当するわけで節分が前年の邪気を払う追儺（ついな）の行事が行なわれます。その代表が「豆まき」です。

・**追儺**（ついな）は、中国で紀元前１４・１５世紀頃から行なわれており、やがて日本にも伝わり「鬼やらい」「厄払い」などといわれ、疫病（伝染病）をもたらす悪い鬼を駆逐するといわれています。「豆まきは」その儀式の一つです。

・**豆まき**は、古くから豆は神聖なものと考えられ、豆を鬼にぶつけ邪気を払いました。また鬼の眼である「魔目（まめ）」が再び生き返らないように、芽＝目がでないように豆を炒って鬼にぶつけ鬼を退散させました。

・**角守り**（かどまもり）として主に西日本に多いのですが鰯を焼き、柊（ひいらぎ＝葉にはトゲがある）に刺して軒先に飾ります。

・**柿生・岡上**では、仕事を早くすませ風呂に入り身を清めます。豆を一升ほど鉄鍋に入れ、豆がらを燃しながら炒ります。
豆をまく場所は、大神宮様、仏壇、荒神様、えびす様などいちばん奥の部屋から外へとまいていき、終わったところから雨戸を閉めます。それは福の神を家の外に逃さないということと悪い鬼が入ってこないようにということです。

◎初午（はつうま）（２月３日）

・２月の節分すぎの最初の午の日が初午（はつうま）です。お稲荷様の祭りの日でその年の豊作と田の神様に祈る行事です。

・**柿生・岡上**では、昔は前日にお稲荷様に集まり夜通しキツネの面をつけ太鼓を叩いて朝を迎えました。当日はダンゴ、赤飯、ごまめ、芋とこんにゃくの煮付け、それに油揚げ（お稲荷様に供える）等を藁（わら）ヅトに入れて神様にあげます。
供える場所は屋敷稲荷の他に地守り稲荷などで岡上の人たちは東光院の「かさもり稲荷」にも供えました。

（初午のぼり）

３月（弥生＝やよい＝"いやおい"の略で、草木が芽を出していよいよ生い伸びる月という意味）

◎ひな祭り（３月３日）桃の節句（節供）

・もともと中国の三国時代（3世紀前半～半頃、魏・呉・蜀の3国に別れていた）の習俗が日本に伝えられたことから始まります。

・平安時代中頃、中国の呪法（まじない）で人形や形代（紙の人がた）に穢れや病を移し、お酒や供物と一緒に川に流したのが始まりでした。やがて室町時代に人形を流さずに家で飾るようになり、江戸時代に今日の雛人形の原型が出来上がりました。

・**柿生・岡上**では、家で女の子が生まれると内裏様（だいりさま）は母親の実家から、三人官女は仲人か叔母が桃の花と一緒に送りました。
いただいた人形は、ひな壇に赤いネルを敷いて金屏風を立てボンボリを置き、お酒を供えます。白酒は自分の家で米麹を使って造りました。
王禅寺では、一升菱餅・白酒・蛤（はまぐり）をもって実家・仲人などの家々に届けたそうです。

（参考資料：「ふるさとは語る～柿生・岡上のあゆみ～」）

平安時代の鬼の絵が土器の底に

奈良県橿原市の遺跡で鬼の顔を墨で描いた平安時代後期の土器が井戸跡から出土したという新聞記事がありました。

右の写真のようにお碗の底の部分に描かれた顔は、口の両端から出ている牙（きば）から鬼と判断できます。現在の節分の豆まきの時に使用される鬼の面によく似ています。

鬼瓦（おにがわら）などは７世紀ころからありましたが絵巻物などに描かれはじめたのは１２世紀以降からです。井戸の底から出土したということは呪い（まじない）に使用されたのではないでしょうか。

（2月3日「読売新聞」より）

柿生郷土史料館開館のご案内

開館時間

開館：午前１０時
閉館：午後　３時

開・偶数月は土曜日
閉・奇数月は日曜日

3月4日(日)（特別展解説14:00）
3月11日(日)（特別展解説11:00）
3月18日(日)（特別展解説14:00）
3月25日(日)（特別展解説11:00）
※25日は午後2時よりカルチャーセミナーです。

4月21日(土)（カルチャーセミナー14:00）
4月28日(土)
※4月21日は午後2時よりカルチャーセミナーが開催されますので特別展見学は午前中のみとなります。

柿生郷土史料館の３・４月の催物

（特別企画展）　※ お問い合わせ ９８８－０００４（柿生中学校）

第４回　特別企画展
「郷土の古民具と信仰展」
（期間）　３月２５日まで

第５回　特別企画展
「写真でたどる柿生・岡上百年の歩み展」
（期間）４月（21日より）～７月（22日まで）

（各種セミナー）

第３３回　カルチャーセミナー

◎テーマ　**「杉山神社と鶴見川文化」**

◎講　師　松本　良樹　氏　（麻生観光協会ガイド）
◎期　日　３月２５日（日）午後２時～　◎会場　柿生郷土史料館
◎内　容　杉山神社が語る鶴見川流域文化の原点を探る。

第３４回　カルチャーセミナー

◎テーマ　**「オオカミの護符」**　現在、書店で人気沸騰中！著者が語る川崎北部の祖先の軌跡

◎講　師　小倉美恵子氏　（宮前区土橋在住・文化庁映画賞受賞）
◎期　日　４月２１日（土）　午後1時３０分より
◎会　場　柿生郷土史料館
◎内　容　「オオカミの護符」の謎を解き、祖先の思いを語る。